

# 平成28年度 あきたスマートカレッジ (報告)

## Aあきたふるさと講座

### A17～20：地域の魅力発信

会場：秋田県生涯学習センター4階 第1研修室

【趣旨】県内の市町村でさまざまな活動を行い、地域からその魅力を発信している人々が、全県へ向けてアピールする講座です。県内各地の取組を知ること、秋田の良さや秋田の未来へのヒントが見えてきます。

| 講座記号 | 期 日           | テーマ                                    | 講 師                           | 参加者数 |
|------|---------------|--|-------------------------------|------|
| A17  | 8月6日<br>(土)   | 仙北市の魅力-高山植物の宝庫 駒ヶ岳<br>～1970年噴火後の女岳の植生～ | 秋田県写真協会<br>副会長 難波和夫氏          | 33   |
| A18  | 8月27日<br>(土)  | 縄文遺跡群を世界遺産へ<br>～史跡伊勢堂岱遺跡～              | 北秋田市教育委員会<br>主査 榎本剛治氏         | 30   |
| A19  | 10月15日<br>(土) | 発酵で健康<br>～ものづくり、ひとづくり、まちづくり～           | よこて発酵文化研究所<br>副所長 七尾章三氏       | 27   |
| A20  | 10月29日<br>(土) | 山と海に抱かれて<br>～遠い遠いふるさとを訪れてみよう～          | 八峰白神ジオパーク推進協議会<br>研究専門員 工藤英美氏 | 21   |
| 合計   |               |  |                               | 111名 |

ここでは、1回目の講座について報告します。



駒ヶ岳に植生する高山植物の写真を難波氏がスクリーンに映していくと、受講者はその美しい風景に思わずうっとりとした声を漏らしていました。ミヤマキンバイやタカネスミレ、チングルマにニッコウキスゲなどは、澄み切った空とまだ雪が残る山肌の色と共に、色鮮やかで可愛らしく咲き誇る姿を見せてくれます。映写機で映した「コマクサ群生」の写真は、20年以上待って撮り、ポスターにもなっている一枚です。斜面一面をピンクに染め、その中に点々と水色が散りばめられているかのような光景でした。

難波氏からは、「何十時間も狙って撮った一枚もあれば、偶然その瞬間に出会えた一枚もある」と、撮影時の状況や心情を語っていただきました。「日の出の岩手山」と題した写真は、岩手山頂のご来光の瞬間を駒ヶ岳から撮った一枚です。他にも、あみだ池や男女岳の四季折々で変化する姿も実に荘厳で、自然の豊かさや尊さを感じるものでした。講演の後半では、駒ヶ岳噴火後の植生の回復と変化の様子について写真を通して分かる事実を紹介していただきました。女岳山頂から噴火したのが1970年、それから8年経っても火口付近はまだ黒く熱が残っていました。噴火から約20年経つと、火山の命の源というべき地衣類やコケ類が火山礫(れき)の上にくらか広がり始めました。そして更に、オヤマソバやハクサンシャクナゲが育ち、植生の回復が見られるようになったそうです。火口付近でも平らな所からミヤマキンバイの花が咲き始めるなど回復が見られました。ところが2006年頃から女岳北東部で地熱が高くなり、現在では多くの高山植物が枯れ出し、その面積が広がってきているようです。自然から学び、シャッターを切っていく難波氏の姿勢から、先生の心の清らかさにもふれることができた講演でした。

